

ふたごちゃん 1年生のお正月

2006年4月に晴れてピカピカの一年生になった我が家のふたごちゃんは、ハナを垂らしながらも楽しいお正月をすごしている。

ひらがなの書き順はあやしく、カタカナは形からしてアヤシク、漢字は習った字より他はいっさい読めない・・・、という”オール3”に爪がひっかかっているけど落ちそうです！っていう残念な通知表を、ニコニコして持って帰ってきた。

当然、冬休みの宿題もホッチキスで止めたプリントが2冊ある。私としては、せめて、この休みの間に、総おさらいをして、完璧にしておかなければならない！と気だけはあせるのだが、なにせ、本人たちがあせる気配を見せない。他の長期休みとは違って、食い気だけは150%のふたごたちにとって、クリスマス・お正月はおいしいものが並ぶので、誘惑に勝てるわけもない。

おまけに、休みに入ると、「一応それまでは学校で頑張っていたんだよ」とでも言いたげに、ちょっと微熱を出してみたりするので、強くも言えず。加えて、全国的に大流行のノロウイルスに私が殺られてしまい、丸二日ダウンしてしまったので、おさらいは終了していないのが現実である。

さて、それでもなんとかお正月の用意は整い、2007年が明けました。おめでとう。今年からは元日からおじさんが遊びに来た(夫の弟＝独身)。ゲームやら本やらパズルやら・・・いっぱいお年玉をかかえて・・・。

最近のこどもはポケットがたくさんあって、方々からいっぱいのお年玉をもらう・・・なんて記事が毎年ニュースになるけれど、うちのこどもたち3人のポケットは私の実家の父母2つのポケットしかない。夫の父母は亡くなっているし、夫と私は、こどもたちがじじちゃん＋ばばちゃんから十分なことをしてもらえるのがわかっているのだから、あえてお年玉はあげない。生まれてからずーっとそうだったので、お金というものが少々理解できるような年になったけれど、我が家はそんなもんだと思っているらしく、実の父母からぼち袋入りの現金をもらえないことを、さほど疑問にも思っていないらしく、抗議をしたり、疑問をぶついたりしない。

そんな中で、おじさんは抱え切れないほどの包みを持ってやって来るし、一緒に遊んでくれるし、大人気である。

特に今年もらったものの中で人気なのは、エポック社の「どこでもドラえもん日本旅行ゲームプラス2」というボードゲームである。横でやっている様子からすると、どうやらドラえもんとその仲間が日本旅行・世界旅行をする・・・要はすごろくである。さいころの代わりにドラえもんのルーレットが付いている。すごろくの要素をベースに、お金のやりとりやトランプ状のカードも使い、実によく考えられたルールである。いつの間にか日本地図と世界地図を覚えてしまうのではないかという、嬉しい期待が親の財布の紐をゆるませる仕掛けになっているらしい。

お兄ちゃんは4年生になっているので、授業の中でも地図帳を使うこともあり、当然ルールも把握でき、十分に楽しめるだろうと思っていたが、1年生のふたごたちがこんなにイケイケでやれるとは予想外であった。

プレイ人数2～6人(ドラえもん・ドラミちゃん・のび太・しずか・ジャイアン・スネ夫)、対象年齢7歳以上とあるのは嘘ではない。私が思うに、去年のお正月では彼らはこのゲームを楽しむことはできなかっただろう。昨年までだったら、順番決めの右回りじゃんけんで”右”がわからず・・・涙。ルーレッ

トを回すのに順番を待てず・・・ケンカ。銀行の係りをやりたくて・・・つかみ合い。1000円と10000円が読めなくて・・・ののしり合い。その他もろもろ・・・。

今年は、お兄ちゃんに一度ルールを説明してもらおうと理解でき、スムーズにゲームをスタートでき、まったく順調である。のび太が不人気でだれも自分の駒にしたくないのだが、おじさん+こどもたち=4人でやっているので全く問題なし。

一年ぶりに出会った友達の子の背の伸びように「あらあ～、大きくならはって、びっくりしましたわあ～」というのと同じに、節目にグンと成長を感じる出来事である。4月から毎日2文字ずつひらがなを習い、言うことも少しずつ偉そうになり、未知の世界であった鍵盤ハーモニカも一応吹けるようになった1年生・・・通知表は母の希望・期待を裏切った(だいたい予想はついていたけれど)けど、あんたたちは賢くなったのね！

全盛のテレビゲームや携帯ゲームも相当面白いらしいが、我が家にはない。だって、取り合い、順番決めで流血騒ぎになること必至だもの。それに比べて超安全で、かつ、ひとりでは絶対におもしろくないのがボードゲーム。兄弟姉妹が3人以上だと、原始的で格好は悪いかもしれないがいかにも知れない。我が家のように、ルールブックを読んで説明してくれる、ちょっと大きい子と、それに従い喜んで参加する小さいふたごっていう組み合わせは、ベストメンバーだろう。

私の小さい頃は、5歳離れた妹と花札やトランプ、坊主めくりをするのに、ふたりでは面白くないので無理に母や父を引き込んでいた。母は、毎年暮れになると、おせち料理を作りながらも、新年に着るための新しい洋服を仕立ててくれていて、今の私よりも疲れていただろうに、ゲームに付き合ってくれていた。ミシンの音は、紅白歌合戦に対抗するように鳴り続けていたから、お正月くらいはゆっくりにさせて、と心から思っていただろうにね。恒例で広告の裏紙に10回戦の表を書いていた。親戚に挨拶に行った後、多分、毎年ゲームをしていたように記憶する。

とりあえず、今年、兄弟3人でボードゲームを楽しむ術を得た。オセロゲームは順番きめで多少モメるが、すでにデビュー済みである。将棋も買い与えてある。お兄ちゃんは今年私に勝負を挑んで来たが、30分ばかりで早々と投了したので、私が将棋の勝負に長時間拘束されることはまだないだろう。

ボードゲームおすすめである。

だが、ドラえもののこのゲームは“あがり”まで長いらしい。いつまでたってもやっている。なんだか、「インドの天気は晴れやった」「アルバイトしなあかん」「坂本竜馬ドラ！ちょうだい」などとすごろくとは思えない会話が飛び交っている。ちょっと興味有るけど、参加すると途中で抜けられないかなあ。とりあえず、こどもたち+おじさんでやってもらおう。